



さらば自民党政治

昨年11月から連日、自民党の各派閥による裏金疑惑が報道され、繰り返される政治とカネの問題に唖然とした人は多いのではないだろうか。自民党の五派閥が長年にわたり派閥のパーティー券収入を政治資金収支報告書に過少申告していたとの、『赤旗』報道が発端だった。

2月14日衆参両院予算委員会での集中審議では、与野党が「政策活動費」の使途公開や廃止など資金透明化のための改革を求めた。しかし岸田首相は「政治活動の自由」を盾に解明や規制を拒んでいる。この主張を認めることは、政治活動の自由の名の下に企業献金を野放しにされ、民主主義が危うくなる。

東京地検特捜部は、政治資金規正法違反容疑で告発された安倍派幹部7人を、不起訴で幕引きしようとしている。しかし、派閥幹部が違法な高額のキックバックを承知していないはずがない。裏金は起訴される会計責任者

が使ったものではなく議員本人が使ったのは自明である。それを検察庁は不問に付した。政権政党と最大派閥への付度以外の何ものでもない。違法が明らかにされたら、訂正で済むのならば犯罪は成立しない。

今回の不祥事は、特殊例外的な事情ではなく、圧倒的少数の資本家階級が、圧倒的多数の労働者階級を支配する、ブルジョアジー独裁の本質に根ざすものである。日本に限らず金権支配に頼らずブルジョア支配を貫徹できる資本家階級など存在しない。

いま、自民党の金権腐敗体質が明らかとなり、有権者に自民党離れが起こり、自民党政治に終止符を打つ絶好の機会である。さらば自民党政治！

労働大学副学長 奥山 信義